

SAKU らいぶ 48号

図書館だより

平成26年新春号



作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部 図書館

[内容]

- ・旧ユーゴスラビア雑感
- ・椰子の木に枝はない
- ・らいぶ Question
- ・NewFace 登場
- ・季を愛でる
- ・SAKUらセレクト
- ・図書館開館カレンダー

旧ユーゴスラビア雑感

作新学院大学女子短期大学部 教授

一般社団法人二紀会 委員・審査員 赤羽 薫

猛暑だった昨年の夏は、制作の傍ら旧ユーゴスラビア解体に関する書籍を繙読した。7月にボスニアで開催されたシンポジウムに参加し、この地の紛争の歴史を垣間見たことも要因ではあるが、36年前の極めて忘れ難い体験が背景にある。

枯葉舞うパリを後にし、僕はエーゲ美術の探訪を目的にオリエント急行に飛び乗った。イタリアの国境の町トリエステを過ぎ、旧ユーゴスラビアに入ると、辺りはくすみのある濁色風土に一変した。荒涼とした風景にすっかり魅了されて、一人旅の気楽さからかベオグラードで降車し数日間滞在した。

行き交う人の髪や目の色は、景観色彩とは裏腹に、黒やブラウンそしてブロンドと、民族カクテルと呼びたいほどに豊かであった。

ドナウ川とサヴァ川が交わるこの町を、26年後にユーゴスラビアという名が消滅するとは想像だにできず、只々彷徨った。

東西交通の要衝にあり、民族と文化がモザイク画を織りなすこの地を理解するには、チト一大統領以後の歴史の理解だけでは断片にすぎない。東西ローマ文明の影響を受けた時代、あるいはオスマントルコの支配まで遡る必要がある。

関連する書籍を探しているが、夏に続きこの冬も制作時間が削減されるだろう。しかし、こんな思いをつまみに熱いラキア(ボスニアの蒸留酒)の味も悪くない。



椰子の木に枝はない

作新学院大学 特任教授 名城鉄夫

「椰子の実」は、島崎藤村が作詩してそれをある作曲家が1936年に歌にした国民歌謡である。その第二番は「旧（もと）の木は 生（お）いや茂れる 枝はなお 影をやなせる われもまた 渚を枕 孤身（ひとりみ）の浮寝の旅ぞ」と歌う。ところが、椰子の実は、幹生果（かんせいこ）で、木の幹に直接実る果実である。リンゴやミカンは木の枝になるが、椰子には枝がなく、直接、幹に実る。枝が影を成すことはない。熱帯果実であるパイヤもチョコレート原料になるカカオも幹生果である。島崎藤村は、1872年信州木曾の中山道馬籠（岐阜県中津川市）で生まれ、その詩を作った時までフィリピンやインドネシアなど南洋に旅をして椰子の実を見ることがなかったのだろう。十九世紀に生まれた藤村には、その見識（見て得た知識）や知見（見て知ること）がなかったのだろう。

その抒情詩を読む現代のわれわれにも日本語に関する教養が少なくなったから、その詩がおかしいことに気づかないのだろう。



らいいび Question



食品の安全性を考える より

嘉田良平 著 放送大学教育振興会 778.77/Mi

100%安全な食品はないということは、私たちが完全な無菌室で生活できるわけではないということと同義である。生産と(①)の連携システムを日々の食卓の中でいかに構築するか。そこに食の安全・安心と生産の持続可能性をより確かなものにする(②)があると思われる。

図書館にある資料から出題します。答えはカウンターにある解答用紙に記入してください。全問正解で1ポイントです。今年度中に5ポイント集めた方には、記念品を贈呈します。

NewFace 登場

～新しく配属になった職員からのメッセージです～

心の持つちから

学生課 會澤真之介

「少女ポリアンナ」は100年も前に書かれた小説である。今なお語り継がれるのは、ポリアンナの持つ明るさに人々が憧れているからかもしれない。考え方ひとつ変えるだけで、状況は一変する。ポリアンナの心に「ちから」がある。

心・技・体。スポーツの世界ではよく使われる言葉ではある。この中でも最近では「心」を鍛えるメンタルトレーニングが注目されている。

私は幼少期からスポーツをしている。つい最近まで全国レベルで現役を続けてきた。どんな試合の前でも緊張はするが、相手が格上で勝てそうになくても、自分は勝てると言い聞かせて試合に臨んできた。最後に奮い立たせるのは「心」だ。でも、全てがうまくいくわけではない。試合に負けることもあるし、落ち込むこともある。しかし、その状況だからこそ気付くこともある。それを見つけられるかどうかは向上する一歩だ。

ポリアンナの心を知ったことで、色んな状況でも世界が広く見えるだろう。心の持つちからは素晴らしい。

季を愛でる

し め かざり
注 連 飾

図書課長 野中千秋

昔から、元旦には「年神(歳神)」という新年の神様が、各家に降臨するとされている。年神様の「年」は稲の実りのことで、五穀豊穡を司る穀物神。また一方では、家を守ってくれる祖先の霊、祖霊としても祀られる。正月の門松や注連飾、鏡餅などの飾り物は、「年神様」を迎えるためのものだ。

ちちの技しかと息づく注連飾

千秋





～本学図書館にある珠玉の1冊を紹介します～

『作曲家の発想術』 青島広志 著 講談社現代新書 080/Ko/1731

誰でも一度は自分で曲を作ってみたいと思うのではないだろうか。

クラシックの作曲家「青島広志」と聞いてピンとこなくても、顔を見れば NHK などの番組に出演していたのであ—あの人ねと分かるかもしれない。

親が音楽家だったというわけでもなく、裕福な家庭でもなかったという著者が、作曲家になるための手段を書いている。

作曲家が書く作曲家の話など、窮屈で自慢たらたらかと思いきや「わが国の作曲家は奇妙だ。身に着けるもののセンスや立居振舞が変なのである。」と言い切る冒頭に大笑いし、この本を手にとった。

本書は三つの章から成る。第一章では作曲家になるにあたっての経済的な問題・音楽大学への入学の是非・作曲家に師事することの重要性について書く。第二章ではクラシック音楽の成り立ちについて、オーケストラ曲・協奏曲・オペラなどがどのように作られているのかを解説。第三章では「同僚の結婚披露宴で歌う」という想定で実際に作曲を試みる。

そのどれもが興味深く、しかも分かりやすいので、第三章まで読み進めると知らず知らずのうちに著者と一緒に曲を作ってしまうから不思議だ。

楽譜が読めなくても音符が書けなくても、この本を読めば気分はもう作曲家だ。

図書館開館カレンダー 2月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

9:00~16:00 休館日

~~~~~ 発行・編集 ~~~~~  
作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部 図書館  
Tel 028-670-3651・3652  
Fax 028-670-3619  
E-mail [tosyo@sakushin-u.ac.jp](mailto:tosyo@sakushin-u.ac.jp)  
URL <http://www.sakushin-u.ac.jp/library/>

